

## 地域の医療機関との連携協力体制

### 1 小児がん患者の受け入れ体制について

当病院では、小児科・小児外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・放射線科等と協力して小児がん全般に対する集学的治療を30年前から積極的に行っています。小児（血液・固形）がんに対する造血幹細胞移植療法（自家、血縁、非血縁、骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血）を、同様に30年前より開始し、これまでに200例近く実施しています。また、小児がんに対する医師主導治験あるいは臨床研究を積極的に行っております。

これらの診療実績により、希少疾患である神経芽腫に対する大量化学療法＋造血細胞移植を含む集学的治療や、難治性血液腫瘍疾患に対する造血細胞移植療法については、全国の医療機関からの紹介患者を多数受け入れています。最近では、帝京大学病院、順天堂大学順天堂医院、順天堂大学練馬病院、聖路加国際病院、イムス富士見総合病院、東京女子医科大学東医療センター、国立国際医療研究センター、日本大学病院、板橋区医師会病院、東京都保健医療公社豊島病院、都立墨東病院、都立広尾病院、練馬光が丘病院、東京北医療センター、独立行政法人国立病院機構埼玉病院などから小児がん患者さんを受け入れています。

### 2 診療実績の少ない治療の連携協力体制について

原則的に全ての小児がんの治療は、当病院で行いますが、陽子線治療については、筑波大学病院、静岡県立がんセンター、国立がん研究センター東病院と連携協力し、大量MIBG療法については金沢大学病院と連携協力し治療に取り組んでいます。また、肝臓移植やECMO治療などの救命治療の一部は国立成育医療研究センターと、肺移植については京都大学病院、岡山大学病院と連携協力を行っています。

### 3 小児がん患者の在宅医療について

小児がん患者の在宅医療については、患者の住居付近の病院又は診療所（板橋区医師会病院、石川医院、藤澤こどもクリニック、能登クリニック等）と連携しております。急変時には当病院で24時間体制で受け入れることとしています。

### 4 AYA世代や成人領域について

AYA世代や成人領域へと長期にわたる治療やフォローアップが必要な症例においても、当病院の全ての他診療科、例えば血液・膠原病内科、整形外科、脳神経外科等と協力して診療を行い、当病院で治療継続ならびに治療完結することもできます。また、地域がん診療連携拠点病院として連携している地域の医療機関との連携体制を活用し、定期的かつ長期にわたる情報共有を図っています。

### 5 その他

小児がん拠点病院が取りまとめ役となる関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会による小児がん診療の連携に参加し、「小児がん連携病院」に指定されております。また、「東京都小児がん診療病院」に指定されており、今後とも地域における医療連携を密に、患者さんへのよりよい医療を目指して行きます。